

久留米 通高 信専

第71号

[DECEMBER 21, 2012]

久留米工業高等専門学校企画主事室
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米工業高等専門学校
校長 上田 孝

「最後まで走りぬく」

今年の科学分野における明るいビッグニュースとしては、世界で初めてiPS細胞の作製に成功した山中伸弥京都大学教授のノーベル医学・生理学賞の受賞があります。日本人の医学・生理学賞の受賞は、昭和62年(1987)の利根川進博士に続いて二人目で、25年ぶりの快挙となりました。生物のあらゆる細胞に分化できるiPS細胞(人工多能性幹細胞:induced pluripotent stem cells)は、今後の研究の進展により、再生医療への応用をはじめ、病気の研究や新薬の開発など多方面への展開が期待されています。

山中教授の生い立ちや研究業績については、既に多くのマスコミで報道されていて、良くご存知の人も多いでしょう。

この偉業達成までの歩みは、決して順風満帆ではありませんでした。幾度もの挫折や失敗に遭いながらも、人の3倍研究するにはどうしたら良いかを常に考えて、地道な努力を続けたことによって、国内外で高く評価される研究成果が生み出されました。

山中教授は、ラグビーの骨折などで治療を受けた経験からあこがれた医者になろうと思い、神戸大学医学部に進学した当初は整形外科医を目指したものの、同僚が数十分で済むような手術に数時間かかり、手術が上手くないことを自覚して病気やケガを治療する臨床医になることは諦め、医学の基礎研究の道に転向しました。大学院を修了して米国留学した後、帰国して日本で大学の助手になりましたが、研究費もなく、実験用ネズミ(マウス)の飼育に追われ、米国とは異なる窮屈な研究環境の中で、うつ状態になりました。臨床医に戻ることも考えましたが、国立奈良先端科学技術大学院大学の助教授への採用を転機として、強い熱意で政府の研究費を獲得し、マウスを用いたiPS細胞の作製やヒトの皮膚細胞からiPS細胞を作製することに成功しました。

ノーベル賞決定後の新聞報道で、山中教授は、論文発表で先

を越されても決して諦めず、最後まで走りぬくことが重要であると言っています。

山中教授と同時に同じ医学・生理学賞の受賞が決定された英国ケンブリッジ大学名誉教授のジョン・ガードン博士は、1960年代にオタマジャクシを用いて、初めて脊椎動物で体細胞からクローンのオタマジャクシを作製することに成功し、今日のiPS細胞研究の礎となりました。

ガードン博士の科学者への道程も平坦なものではありませんでした。イギリスの名門パブリック・スクールであるイトン校に在学した15歳の頃に、理科の担当教師から、人の言う事を聞かずに自分のやり方に固執し、学習成果も不十分で、科学者になることを考えているが全く馬鹿げており、彼自身にとっても彼を教える側にとっても完全に時間の無駄であると通知表で酷評されました。今でも気分転換のためにその通知表を研究室に飾っているそうです。その後、オックスフォード大学に進学し、当初は古典文学を専攻しましたが、生物研究を諦められず動物学専攻に変わり、生涯の研究テーマとなった核移植の研究に取り組みました。

華やかなノーベル賞受賞の背景には、少年期から志していた科学者を目指したガードン博士や「万事塞翁が馬」を座右の銘として苦難を乗り越えた山中教授のように、紆余曲折する中でも熱意と地道な努力の継続があったことを、心に留めておく必要があります。

皆さんも、高専生活の中で苦しいときや楽しいときがあると思いますが、最後まで走りぬいて色々な経験を積み重ね、高専時代に一生の宝となるものが得られることを願っています。

高専祭を終えて

高専祭実行委員長
電気電子工学科 4年 小島 大空

今年で47回となる高専祭も無事に終わることができました。今年のテーマは、「若気の至り」でした。まだまだ若者の僕らはたくさんの過ちを犯します。しかし、若いからこそ許されることもあります。その若さという1番の武器を手に、エネルギーを前面に押し出し、これまでにない高専祭を作り上げたいと思いこのテーマにしました。

2日の前夜祭では、例年の御輿行列、大花火に加え、福岡を拠点とするご当地アイドル「QunQun」を迎え、最高の祭の幕開けを演出することができたと思います。

3日の文化祭は、展示・出店、毎年恒例の女装コンテストをはじめとするステージイベント、バンド演奏、そして「THE MANZAI」出場お笑いコンビ「エルシャラカーニ」による漫才に、会場であるメインストリートに客足が途絶えることはありませんでした。

私は4年間実行委員会に所属し、今年は実行委員長という大役を経験させていただきました。仲間と高専祭の準備をするなかで、たくさんの壁に衝突しました。時には、自分の言動により信頼を失ってしまいそうなこともありました。それでも、僕をあたたく支えてくれた仲間感謝の気持ちでいっぱいです。実行委員会として今年の高専祭での反省はたくさんあります。しかし、もう現在のメンバーでその反省を取り返すことはできません。その反省は、来年の高専祭を作り上げる後輩たちに期待とともに託したいと思います。来年の高専祭は一参加者として、思いっきり楽しみたいと思います。

最後に、学生の皆様、協力していただいた教職員の皆様、地域住民の皆様、ご来場していただいた皆様、そして実行委員会の皆さんに、心より厚く御礼申し上げます。



「みんなでつくる体育祭」

体育祭実行委員長
制御情報工学科 5年 稲員 直哉

今年度の体育祭は雨の影響により午後から短縮プログラムでの開催となりました。幸いにも午後から雨が降ることはなく、グラウンドの状況も午前中と比べて良くなっており無事に競技を行うことができました。

短縮プログラムの内容は、「黒棒」「応援合戦」「騎馬戦」でした。応援合戦では各学科とても覇気のある演武を披露してくれました。中でも看板部門、応援団部門、総合で3冠を達成した生物応用化学科の赤旗を使った演武は強く印象に残っています。殺陣ではダンスからお笑いまで幅広くあり、学生のみならず、来賓の方々、保護者の方々にも楽しんでいただけたのではないかと思います。騎馬戦では雨への怒りをぶつけ合うような激しい戦いを繰り広げつつ、途中で戦隊ヒーローが参戦しているような所が高専の体育祭らしくとても良いと思いました。

今年度は東亜マイスターと専攻科生チームを迎えての体育祭となりました。開祭から閉祭まで大いに盛り上げていただきました。また、雨で省略となってしまいましたが、本来ならば教職員の方々も参加いただける競技を予定しておりました。来年度も本科生のみならず学校全体で楽しめるようなプログラム作成を心がけますので、意見・要望を気軽に各クラスの委員等に申しただけると幸いです。

私は実行委員となって4年間本当に多くのものを得ることができました。なにより高専生活の中で1つの事をやり遂げることができたことを大変うれしく思っています。体育祭についての課題は多く見つかったものの、最後には校長先生に一体感ある高専健児を頂けるほど盛り上がりました。来年度は課題をクリアしさらに素晴らしい体育祭となることでしょう。

最後に、体育祭を開催するにあたって協力して下さった教職員の皆様、保護者の皆様、地域住民の皆様に深く感謝致します。そして、体育祭実行委員のみなさん、本当にありがとうございました。



工場見学旅行

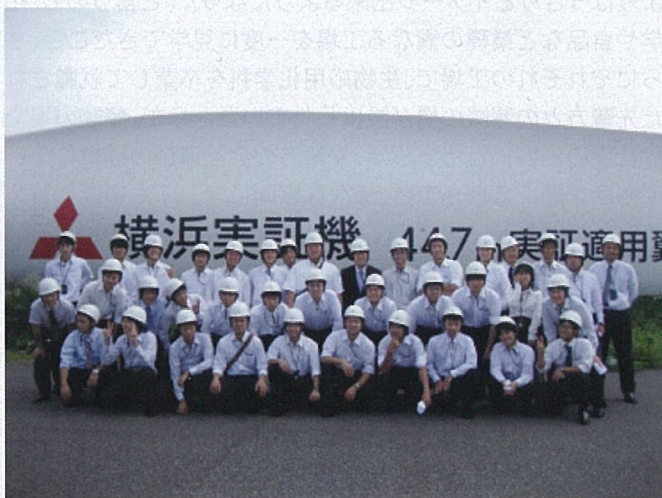
「働く」ということ

機械工学科 4年
藤井 大輔

9月24日から25日の4泊5日で私たち機械工学科4年生は関東地区で工場見学旅行を実施しました。訪問した企業は全日空の羽田空港内にある機体整備工場やオイルシールなどを作っているNOK株式会社、工作機械の製造を行っている牧野フライス製作所、ボイラなどの製造を行っている三菱重工業横浜製作所、タービンの羽を製造している東芝京浜事業所の計5社を訪れました。中でも最初の日に見学させていただいた全日空の整備工場では実際に航空機が離着陸しているそばでの整備現場を、その場で働いている人たちの生の声を聞きながら見る事ができました。また、新型機のB787を間近で見ることができ、様々な質問にも答えていただきました。他の見学先では、久留米高専を卒業してその企業に就職された方の体験談を聞かせていただく機会もありました。企業見学を通して、普段自分達が使っている身近な製品を作るための機械であったり、その中に使用されている部品などが実際に製造されている現場をたくさん見学することが出来ました。しかし、どこの見学先でも言われたのが不景気の影響による利益の減少が少なからずあるという現場の声でした。4日目には自主研修があり、それぞれ仲間との絆を深め合うことができました。

私は自主研修の日に早朝にホテルを出ました。そんなときに目にしたのが朝の満員電車で次々と乗り込む、首都東京のビジネスマン・ビジネスウーマンの姿でした。5日間、「ものづくり」の現場を見て、更には夏休みに短期インターンシップで企業での就職体験もしてきた上で目にしたそういった姿は高専卒業と同時に社会へ飛び出す仲間もいる私たちに働きだすことへの期待感と同時に大変さや不安も語りかけてきたような気がします。

工場見学で得たことは人それぞれたくさんあると思います。私は改めて「働く」という言葉に含まれる様々な意味を考えることができました。



工場見学旅行を終えて

電気電子工学科 4年
山崎 映未

長い長い期末試験を終えて、待ちに待った工場見学旅行です。私たち電気電子工学科は9月24日から5日間、中部・関東に行ってきました。

着慣れないスーツを身にまとい、最初に見学したのは花王豊橋工場です。着くまではみんな旅行気分で少し浮かれていたけど、工場を目の前にして気が引き締まりました。その後に愛知高速交通のリニアモーターカーLinimoの乗車体験をしました。騒音もなく加速もスムーズでカーブを減速することなく曲がることができ、とても快適な乗り物でした。

二日目からのバスガイドさんがとても可愛い方で、4年電気科らしいテンションでバスの中はずっと賑やかでした。この日は東芝科学館とJAL機体整備工場を見学しました。JALでは間近で飛行機を見ることが出来ました。あんなに近くで飛行機の整備・点検過程を見られる機会なんてないので、本当に貴重な経験でした。

三日目は午前中に東芝京浜事業所のタービン工場を見学し、午後からソニー・エクスプローラサイエンスへ行きました。そして、楽しみにしていた東京スカイツリーへ行きました。44人のスーツを着た団体がうろうろしていたのでかなり目立っていたと思います。旅行のプランにチケットも含まれていたもので、長い行列に並ぶことなく最上階に登ることができました。スカイツリーからの景色は東京の夜景を一望でき、とても綺麗でした。

四日目は一番の楽しみだった自主研修です。東京に行ったら行ってみたいと思っていた秋葉原、新宿、渋谷、原宿をまわって来ました。明治神宮にも行きました。どこに行っても溢れんばかりの人の多さに驚きました。最後に東京タワーに行って夜景を見てきました。東京タワーからの夜景はスカイツリーとはまた一味違ったものでした。

工場見学旅行最終日には、本田技研工業埼玉製作所の工場を見学しに行きました。HONDAの工場の中はテレビで見るとような工場、自動車を作る過程を間近に見ることができ電気科一同テンションが上がっていました。

旅行を終えて、クラスの雰囲気が変わりました。絆が深まったのを、私を含めみんなが感じたと思います。この絆を胸に、これからの試験や就職・進学の時もみんなで乗り越えて行きたいと思います。

工場見学旅行

工場見学旅行を終えて

制御情報工学科 4年
宮原 裕紀

前期期末試験から解放されて3日後の9月24日、私たち制御情報工学科4年生は博多駅に集合した。着慣れないスーツに身を包み格好だけ大人に近づいた私たちは、少年のように目を輝かせながら工場見学旅行へ出発した。

一日目は、新幹線に乗って大阪へ行き、ダイキン工業堺製作所を見学した。ダイキン工業では、国や地域によって異なるニーズに対応した製品が作られており、その製品に実際に触れたり、製作工程を見学したりしたことで、人々が求める価値をカタチにすることの難しさと大切さを学ぶことができた。また、人事部の人に直接話を聞き、就職活動にあたっての心構えを教わった。

二日目は、ユニバーサルコミュニケーション研究所を見学した。音声処理や三次元映像など、最先端の情報技術に実際に触れることで、情報技術のすごさや面白さを改めて確認することができた。見学後、バスで名古屋へ移動した。この日宿泊したホテルにはプールがあり、担任の小田先生や友達と楽しく汗を流した。

三日目は、ヤマザキマザック美濃加茂製作所を見学した。今回の旅行で私が最も衝撃を受けたのがこの工場だ。工作機械を製作しているメーカーなのだが、その工作機械の動きは機械とは思えないほど滑らかで、それから生み出されるモノは製品というよりも作品という言葉が似合うほど美しいものであった。また、ヤマザキマザックは多くの国に製品を出荷しており、海外にも職場があるということを実感した。

四日目は、東京で自主研修だった。それぞれが行きたい場所へ行き、楽しい時間を過ごすことができた。

最終日は、日産自動車横浜工場へ行った。歴史的な社屋の一室に歴代のエンジンが展示してあり、技術が進化していく様子を感じることができた。

今回の旅行を通して、私たちは多くのことを学び、感じることもできた。また、それぞれが自分の将来について考えるいい機会にもなったと思う。私たちがこの先、どのような形で社会に出て行くかはまだ分からないが、今回学んだ常に上を目指し努力をし続ける姿勢を忘れずに生きていきたい。

工場見学旅行を終えて

生物応用化学科 4年
遠藤 喜嗣

人生2度目の飛行機で乗り物酔い。工場見学旅行はいささか不安なスタートを切った。

1日目。神戸ワイナリーでBBQの昼食の後、江崎グリコの神戸工場、グリコピアを見学し、六甲オルゴールミュージアム、六甲山頂を経て1日目の宿、有馬温泉へ到着した。

2日目、最初はカネカ高砂工場の見学だった。私自身、パンを作る際にカネカイーストを使ったことがあったため、非常に興味があった。医薬品中間体の製造工場を見学したが、内部は縦横無尽にパイプが走るまさしく「プラント」、という感じだった。その後2番目の工場、森永乳業神戸工場へと向かった。ここは私の徹夜の供、Mt.Rainier等を製造しており、様々な製品がラインを流れていくのを見ることが出来た。その後、南京町、ハーバーランドを散策し、いよいよ2日目のラストを飾るディナークルーズへと向かった。遮る物の無い海上からの神戸の夜景は、非常にきれいであった。

3日目は、塩野義製薬摂津工場からスタートした。皆さんも一度はお世話になっているであろう様々な薬を作っている。医薬品は命に関わるため、分析施設も非常に充実していた。太陽の塔を遠くに見ながらの昼食の後、資生堂大阪工場へ向かった。資生堂は女性のみならず、男性向けの化粧品も数多く製造している。様々な化粧品が調合された後、ラインに流れ次々と製品化されていく様子を見学した。

4日目は待ちに待った自主研修の日である。吉本新喜劇の観劇、日本橋の散策、鶴橋での焼き肉等、大阪を目一杯楽しむことが出来た。一番大阪を楽しんだのは私達だと自信を持って言い切れる。

5日目、名残惜しいが旅行最後の日である。大阪城、通天閣を見学後、昼食は新世界で串カツの食べ歩きとなった。道頓堀の自主研修の後、一同、帰途へと着いた。

今回の旅行で、就職するということがどういうことなのか、よりはっきりとイメージ出来るようになった。と言うのも、化学や食品など業種の異なる工場を一度に見学できたこと、さらにそれぞれの工場で、生物応用化学科を卒業して就職された先輩方との懇談の場が設けられていたからだ。懇談の場では仕事の内容にとどまらず、先輩方の会社選びの経緯についても話を聞くことができ、様々な質問に対しても率直に答えていただいた。この旅行は、高専生活での良き思い出になるとともに、進路を定める上で非常に貴重な経験となったことを記して、筆を置くことにする。



工場見学旅行

実りある工場見学旅行を終えて

材料工学科 4年
松浦 紅

私たち高専生にとって工場見学旅行は、中学校の修学旅行以降初めての団体旅行で、しかも4泊5日という長さの旅行は心躍るものでしかありません。ただし、観光や思い出作りのみならず、自分たちの将来に直結する学習の場であるため、相当な緊張感、そして訪問させていただく企業は、先生方のご紹介あるいは先輩方が就職されたところが多く、プレッシャーも伴う旅となりました。

さて、材料工学科は、大同特殊鋼、株式会社デンソー、京セラ株式会社、三菱重工高砂研究所、計4社を訪問し、通常の工場見学では見学できないような場所を見学させていただいたり、高専の材料学科の先輩方だからこそ話していただける就職で活かせる内容のお話を聞かせていただいたり、とても興味深く貴重な時間を過ごすことができました。各社とも短い時間ではありましたが、自分たちの将来を見据えるいい機会になりました。

私の場合は、夏期休暇中にインターンシップで企業で働くということを体験した後の工場見学旅行でした。インターンシップでは、実際に働かれている方と同じ時間で工場での作業を行なうなど、内部から企業を感じることができました。それに対して、工場見学旅行ではインターンシップとはまた違う視点から企業を感じることができました。企業の大きさに圧倒され、企業がそれぞれで行っている取り組み、目まぐるしく変化する社会への対応などを直に見聞きすることができました。そして、今までは漠然としていた『はたらくこと』に対するイメージを固めることができました。企業の小さい大きいに限らず、いい製品をつくりたい、社会に貢献したい、という考えは一緒であると感じ、何のために働くか、自分が何をして働くか、自分自身と向き合って、これからの人生を考えていかなければならないと再確認できました。

この旅行を通し、普段の学校生活では見られなかった友だちの新たな一面を発見できたり、今まで以上に仲が深まったりと、自分自身の将来の為だけでなく、これからの学校生活をもっと楽しめるような経験になりました。残りの学校生活を大切に過ごしていきたいと思えます。



河合 伸治(かわい のぶはる)
職名 一般科目(文科系) 准教授
(平成24年9月1日付)
前職 ノースアジア大学経済学部
専任講師
抱負 これまで高校・大学で教壇に
立ってきた経験をいかして、
教育・研究に頑張っていきたい
と考えております。まだまだ
不慣れなところがあってご迷惑
をおかけしてしまうこともあるか
と思いますが、ご指導の
程宜敷くお願い致します。
趣味 喫茶店巡り、鉄道旅行、
野球観戦



神谷 優美(かみや ゆみ)
職名 学生課 事務補佐員(寮母)
(平成24年9月1日付)
前職 看護師
抱負 寮生が安心して生活を送れる
ように生活相談、健康管理を
行って行きたいと思えます。
よろしくお願ひ致します。
趣味 ボランティア活動



俣野 ふく代(またの ふくよ)
職名 学生課図書係 事務補佐員
(平成24年10月1日付)
前職 図書館司書
抱負 少しでも早く仕事を覚えるよ
う努力したいと思えますので、
どうぞよろしくお願ひいたし
ます。
趣味 書道

第5回シンガポール交流を通して

企画主事補 国際交流担当
一般文科准教授 金城 博之

皆さんは毎年実施しているシンガポールポリテクとの学生交流に参加したことがありますか？この企画は、「広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者」育成という本校教育理念に向け、多様な文化や価値観への興味・関心を高める機会を設けることを目的に、後援会の支援の下毎年実施されています。平成19年にテマセク・ポリテクの学生が初めて本校を訪問してから5年目を迎え、今回までに200名以上のポリテクの学生と交流をしてきました。今年も学生43名、引率者2名が秋季休校中の9月27日に本校を訪れ、学生同士の有意義な交流が行われました。

訪問の時期が後期の始まる直前の訪問で、募集期間が前期定期テスト中ではありますが、それでも今年も本校から多数の学生が参加しました。特に今年は、4年生が工場見学旅行中でしたせいか、1年生が19名を占める異例の交流会となりました。交流では英語を使いますので、今回は下級生でも楽しめる有意義な交流にするというのが課題でした。

10人程度の班毎に分かれ、一緒にお弁当を食べ、日本文化として鶴や兜など折り紙の折り方を教えてあげました。1週間前に本校学生に英語での折り方説明を配布して、練習させてあったので本番では何とかこなせたので自信がついたとの声が聞かれました。相手も日本の文化を学ぶことができ大変喜んでいました。次に、各班で事前に話し合っただけのりかリズム等の手遊びやジャスチャーゲーム等の簡単に楽しめる活動をしました。各班ともリーダーを中心にレクの説明から、指示に至るまで協力して積極的に参加していました。学生はある程度自らの英語力を高めてから参加することが求められますが、参加することで教室では学べない何かを学ぶことができるのではないかと思います。「手順・作業の説明」や「動作の指示」などは、海外の工場などに派遣されたなら必ず使う言語スキルではないかと思います。参加した1年生からはリーダーが助けてくれたので、大変楽しかった、来年もぜひ参加したいという声が多く寄せられました。

語学力のある上級生や特に優れた学生にリーダーを任せ、1年生でも安心して参加できるよう工夫しています。リーダーを中心に下級生も積極的に参加できる交流会になったと思います。教員が何も指示しなくても主体的に取り組める上級生がいて、そんな上級生を見て下級生が成長する、下級生を指導することで上級生が指導者として成長する。語学堪能な学生には、リーダーとしてチームをまとめるコミュニケーション能力を磨いてもらう、リーダーとしても語学学習者としても参考になる学生に助けをもらいながら、英語が苦手な参加者も興味関心を高めてもらう。人と人との交流を通して、視野を広め海外に目を向けさせる。これがこの交流で目指したことです。言葉に自信がなくても、何とかしようと努力する、その意気込みさえあれば大丈夫、参加する資格は大いにあります。

最後になりましたが、ご支援を頂きました後援会ならびに協力していただきました教職員の皆様には厚く御礼申し上げます。



国際交流

東亜マイスター校との学生交流

機械工学科 2年
本田 亮平

「久留米高専の文化祭を、ぜひ見学したい。」ということで、東亜マイスター校から9人の生徒が久留米高専に来ました。東亜マイスター校とは昨年11月に学生国際交流行事を行いました。その時僕は寮生として東亜マイスター校の学生のお世話した関係から、今回彼らの案内役を務めました。東亜マイスター校のみんなは、11月2日から5日までの3泊4日間、久留米高専の寮に泊まって前夜祭から体育祭を見学しました。

1日目。対面の時、彼らの中に前回の交流会で友達になった人が1人いて、とてもうれしかったです。それと、日本語がとても上手で、普通に日常会話ができるようになっていたので驚きました。その後すぐに神輿の衣装の法被と足袋に着替えて神輿に合流しました。9人にも神輿の担ぎ手を経験してもらいました。みんなで「わっしょい！わっしょい！」と叫びながら神輿を担ぎました。神輿はかなりの重さなのですが、東亜のみんなは「きつかったけど、とても楽しかった！」と口を揃えて言っていました。

前夜祭と文化祭では彼らはいろいろな人にインタビューをしていました。レポートを書くためだそうです。祭りを通して一番面白かったのは女装コンテストだったそうです。久留米高専の女装コンテストは韓国人にもウケていました。

3日目は体育祭の準備の日でした。竹を竹林から切って運んできて、矢倉を建て、竹を立てる。この作業は、ほぼ学生だけで行われていると話す、「これ毎年やるのですか？久留米高専はすごいですね！」と教えてくださいました。竹を立てるのを手伝っているときも、周りの人と話しながら楽しそうに作業していました。

4日目は体育祭でしたがあいにくの雨でした。しかし、応援合戦や、騎馬戦を見て、「かっこよかった！！おもしろかった！」と、とても褒めてくれました。

9人が帰るとき、別れるのはとてもつらかったです。でも、また会おうと約束して、笑って別れました。またいつか会おうと言ったそのすぐ後に忘れ物が見つかり、走って届けたので「また会ったね～」と笑い合いました。ほんとにいい人たちで、案内していた僕も楽しかったです。

今、竹島問題で日本と韓国が変なことになっています。文化・生活習慣が違っても同じ人間、分かり合えるを感じました。



全日本学生室内飛行ロボットコンテスト ベストプレゼンテーション賞

材料工学科 4年 大石 和希

翔同好会では、毎年「全日本学生室内飛行ロボットコンテスト」という大会に出場しています。今回、最も優れたプレゼンテーションを行ったチームに贈られる賞「ベストプレゼンテーション賞」を頂きました。

今年は、これまで3代続いてきた「ひよっこ」という機体のシリーズから脱却し、新しい、奇抜な形の飛行機を求めて活動を開始しました。その結果、これまで培ったノウハウが通用せず、最終的に例年の数倍に及ぶ12機もの試作機を作ることになりました。試作し、問題点を洗い出し、改善し、新たな問題点を見つける、ひたすらこれを繰り返し、時間的にも、体力的にも厳しかったです。何より材料が枯渇したため、試作機を作り、飛ばないと分かるとすぐさま、次の試作機を作るために自分たちの手で、手塩にかけた機体を解体しなければならず、精神的にとっても苦しい思いもしました。そんな中、平日休日昼夜を問わず常に多くの部員が活動に参加しました。それがなかったなら、これだけ膨大な数の試作を行うことは到底叶いませんでした。そして、その苦勞が報われた結果が今回の受賞です。受賞の決め手となったのは「構想と、どんな過程を経て現在の機体に至ったかということ、写真などを用いて工夫して説明したこと」でした。個人的な感想になりますが、僕は受賞のものより、むしろ受賞理由に喜びを感じました。今はもう何も残っていない試作機や、皆がそれらを作るためにした様々な苦勞の全てが、大会機を作るための踏み台として消えるのではなく、受賞のための下積みとして生きてくれたことが何より喜ばしいことでした。

来年も今年得た喜びを忘れずに、新しい事への挑戦を恐れずに活動していきたいと思います。



高専技科大連携教育研究プロジェクト 学生成果報告会優秀賞

物質工学専攻 1年 武藤 毬佳

2012年8月に豊橋技術科学大学にて開催された高専技科大連携教育研究プロジェクト学生成果報告会に参加しました。この報告会は、豊橋技術科学大学と全国の高専が連携して行った65件の共同研究内容について、分野ごとにショートプレゼンテーションとポスター発表を行うものです。私は電気・電子情報工学分野において、「交流電解法によるTiの多孔質皮膜の生成」の題目で研究成果報告を行い、優秀賞を頂きました。

この共同研究は、豊橋技術科学大学の武藤准教授と行ったものです。武藤先生は、私が3年生の時に人事交流で材料工学科に所属されており、当時から親近感溢れる方で、研究を進める上でのディスカッションをスムーズに行うことができました。また、この研究は、歴代の諸先輩方によって継続して行われてきたので、この喜びは、本研究に関与された方々と共有したいと思っています。

報告会では、他高専の同世代の発表を聴講することができ、とてもいい刺激になりました。特に、聞き手に対し、研究内容を簡単に分かり易く伝える表現力や研究ストーリーの展開の仕方など、自分に足りないものを感じました。さらに、ポスター発表では、様々な分野の先生方から貴重なご意見を頂戴し、非常に有意義な経験となりました。今後、自分に足りない能力を身に付け、研究室の後輩や同級生と切磋琢磨しながら、より一層の努力をしていきたいと思います。

結びに、日頃から熱心にご指導頂いている材料工学科の田中教授と共同研究先の武藤准教授に感謝するとともに、研究室の諸先輩方に心より御礼を申し上げます。また、このような結果を出せるまでに成長させていただいた久留米高専の関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



第49回九州沖繩地区国立高等専門学校体育大会 (冬季) の主な成績 (11月10日～13日)

ラグビーフットボール	準優勝 (決勝:久留米24-33佐世保)	全国大会出場(2年連続通算24回目)
------------	-------------------------	--------------------

第47回全国高等専門学校体育大会 (夏季) の主な成績 (8月18日～28日)

柔道	女子個人(体重別)	3A 石橋 典子	第3位
----	-----------	----------	-----

第49回九州沖繩地区国立高等専門学校体育大会 (夏季) の主な成績 (7月13日～22日)

陸上競技	学校対抗			第3位	
	100m	4S 藤吉 輝明		第1位	全国大会出場
	200m	4S 藤吉 輝明		第1位	全国大会出場
	400m	3M 山内 慧祐		第2位	全国大会出場
	三段跳び	4S 石橋 聡		第1位	全国大会出場
	4×100mリレー	4A 松尾 卓実		第3位	全国大会出場
	4×400mリレー	4E小坪、4S藤吉、5C川端、3M山内		第1位	全国大会出場
	女子800m	3M山内、4S石橋、4E日下部、4S藤吉		第1位	全国大会出場
バドミントン	女子団体(オープン)	2S 中村 優花		第3位	
	女子個人(複)			優 勝	全国大会出場
水泳	男子自由形100m	2C 本川 彩奈、2C 神之園 那帆		準優勝	全国大会出場
	男子自由形200m	5S 嶋田 健汰		第3位	全国大会出場
	女子背泳ぎ50m	5A 隈 光祐		第3位	全国大会出場
	女子自由形100m	4C 碓井 美咲		第1位	全国大会出場
ソフトテニス	女子個人(複)	4C 碓井 美咲		第3位	
バスケットボール	男子	1M 佐藤 清蓮、1M 中島 美徳		優 勝	全国大会出場
サッカー				準優勝	全国大会出場
柔道	男子個人(90kg超級)	4A 上葉 健人		第3位	全国大会出場
	女子個人(体重別)	3A 石橋 典子		優 勝	全国大会出場

大学編入学合格状況

大学名	合格者数					計
	機械	電気	制御	生化	材料	
豊橋技術科学大学(工学:推薦)		1		2	1	4
豊橋技術科学大学(工学)	1	1	1	3	1	7
長岡技術科学大学(工学)				1	2	3
九州大学(工学)	2	2	3	1	1	9
九州工業大学(工学:推)	4	3			1	8
九州工業大学(情報工学:推)			3			3
佐賀大学(理工学:推)					2	2
佐賀大学(理工学)	2	1	1		2	6
熊本大学(工学:推)					1	1
熊本大学(工学)	1				1	2
鹿児島大学(工学)	1					1
山口大学(工学)					1	1
広島大学(工学)	1	1				2
広島大学(生物生産学)				1		1
大阪大学(工学)	1	1				2
東京大学(工学)		1	1			2
東京工業大学(理学)		1				1
首都大東京(都市教養学部)	1	1				2
首都大東京(システムデザイン学部)	3					3
横浜国立大学(工学)		1				1
筑波大学(理工学)		2				2
筑波大学(情報学)			1			1
千葉大学(工学:推)				1		1
茨城大学(教育学部)					1	1
北海道大学(工学)	1					1
室蘭工業大学(工学)			1			1
電気通信大学(情報理工学部)		1				1
合計	18	17	11	9	14	69
重複者を除く実数	14	11	9	8	14	56

久留米高専専攻科合格状況

学校名	合格者数					計
	機械	電気	制御	生化	材料	
久留米高専専攻科(推)	2	3	1	3	3	12
久留米高専専攻科(学)前期	5	7	7	5	4	28
久留米高専専攻科(学)後期	0	2	0	1	1	4
合計	7	12	8	9	8	44

他高専専攻科合格状況

学校名	合格者数					計
	機械	電気	制御	生化	材料	
有明高専専攻科(学力)		1				1
合計	0	1	0	0	0	1

専攻科大学院合格状況

大学院名	合格者数		計
	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	
九州大学大学院(総理工:推)	2	1	3
九州大学大学院(総理工)	1	3	4
九州大学大学院(システム生命科学)	2		2
九州大学大学院(システム情報科学)	4		4
九州工業大学大学院(情報工学府)	1		1
東京大学大学院(工学)	1		1
東京工業大学大学院(総合理工学)	1		1
京都大学大学院(情報学研究科)	1		1
筑波大学大学院(システム情報工学)	1		1
北海道大学大学院(情報科学研究科)	1		1
北陸先端科学技術大学院大学(情報科学研究科)	1		1
合計	16	4	20

平成24年度 卒業予定者の就職内定状況

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
明治 関西工場 牧野フライス 三松 富士重工 ダイキン工業 アドバンテス メディック 山九 福山 キヤノン 三九 君津 林テレンプ 住友化学 中部電力 三菱重工 栗東 三菱重工 高砂 IHIエアロスペースエンジニアリング 日本精工 JFEスチール西日本 九州フジパン デザインネットワーク 積水化学 シバタ機械 出光エンジニアリング	関西電力 富士通 フランク 西部電機 東芝メディカルシステムズ キンピール福岡工場 出光興産徳山精油所 ジーエス・ユアサフィールドिंगス 中部電力 フリーダム 第一精工 日本タンクステン JR西日本 KCCSモバイルエンジニアリング ネクシス アイコム NOK 富士重工業 栄電社 ミニミニ九州	セイコーエプソン 九州電力 富士ゼロックス トヨタプロダクションエンジニアリング ムーンスター 安川コントロール 栄電社 三井ハイテック NHK 富士重工業 メタウォーター ネクシス ディー・エステック システムニッソ 久留米ガス 大和製罐 九電テクノシステムズ	田口電機 シオノギ分析センター 武田薬品工業 ニプロ 大日精化 協和発酵バイオ 第一三共プロファーマ 出光興産 大石膏盛堂 ムーンスター 昭栄化学 極東石油	ネクシス 第一精工 鳥栖シール 日清紡プレーキ 東洋鋼板 宇部興産 東伸熱工 田口電機 三松 中部鋼板 シマノ 高周波熱線 新日鉄 フジコー TOWA 昭栄化学 DOWAサーモテック アーレステイ ラサステイール NOK エンケイ 東研サーモ 旭テック 旭化成 日本ビストロリング 九州LP

平成24年度 専攻科卒業予定者の就職内定状況

<p>機械・電気システム工学専攻</p> <p>求職者 21 男 19 女 2</p> <p>内定者 16 男 14 女 2</p>	<p>オーレック 第一精工 富士古河E&C リコーテクノシステムズ 資生堂 旭化成 公務員 富士電機 富士通アドバンソリューションズ 九電テクノシステムズ トヨタテクノカルディベロップメント ヒロエンジニアリング 日立INSソフトウェア 八光オートメーション</p>	<p>物質工学専攻</p> <p>求職者 12 男 6 女 6</p> <p>求職者 12 男 6 女 6</p>	<p>森永乳業 日本生物製剤 DIC 東燃化学 アステラス製薬 ダイキン工業 沢井製薬 旭化成 日本電産 日東電工豊橋事業所</p> <p>ヤマハ発動機 日本精工</p>
--	---	---	---